



- 研究テーマ 傷害予防プロジェクトー児童生徒の主体的な安全獲得支援ー
- 所属職名氏名 保健体育講座 教授 笠次良爾
- 研究シーズ概要

学校園・スポーツ現場における安全対策の基本は安全管理と安全教育の2本柱であるが、管理で外から護るだけでは不十分であり、児童生徒や選手が自ら主体的に安全に対して取り組むよう、教育で行動変容を促すことが必要不可欠である(図1)。

傷害予防のための戦略は近年、学校安全やスポーツ医学など複数の領域から提案され確立されつつあるが、本プロジェクトではこの戦略に基づく研修会を系統的に通年開催し、傷害予防コンテンツを現場介入方法として提供する。

具体的な介入方法としては、児童生徒が主体となって取り組むことができるプラン(例:ICTを用いた安全学習によるハザードマップ作り、オリジナル体操考案、中学以降の運動部活動群には下肢障害予防トレーニング導入、体調や疼痛のセルフチェック、緊急時対応マニュアル[Emergency Action Plan]作成など)を提示する。ICTを用いた安全学習については産業技術総合研究所デジタルヒューマン工学研究センター傷害予防工学研究チームと連携し、デジタルコンテンツを提供する。また運動部活動における傷害予防トレーニングやセルフケアシステムの導入に関しては学外のスポーツ医療の専門家と連携し、本学における研修会に留まらず、学校現場への講師派遣も検討する。

介入方法の選択に関しては、日本スポーツ振興センターの災害給付申請や保健室受診状況などのデータから、まず現場におけるリスク因子(=各学校現場の健康課題)を抽出し、最適な介入方法を探り、各学校現場の事情に合わせて自由に選択することとする。効果判定は災害給付申請件数並びに金額と、ICTを用いた安全学習に関しては産業技術総合研究所から依頼されたアンケート用紙を用いる(図2)。

本プロジェクトは、児童生徒の主体性を引き出すことに重点を置き、現場実践を介入の効果検証まで含めて学術的に支援する、Community-based participatory research approachである。

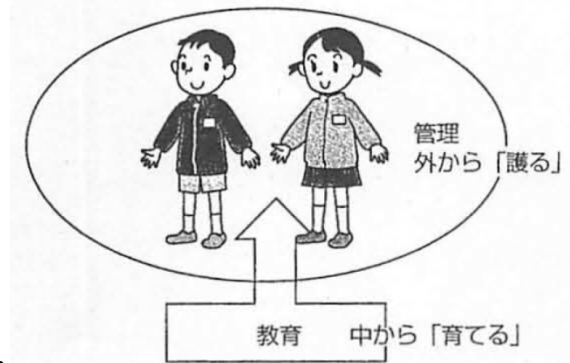
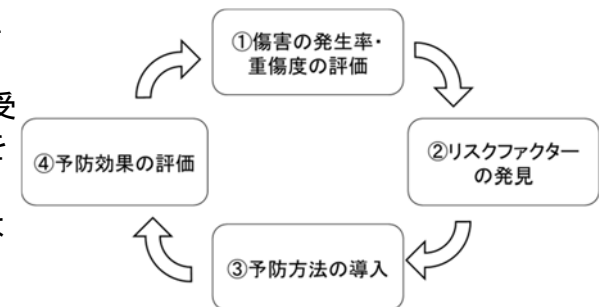


図1.学校現場における安全対策
(笠次.体育の科学.64(4),2014)



(van Mechelen,W. et al. Sports Med. 14:82-99, 1992.より一部改変)

図2. 傷害予防研究の4段階モデル